

1. 評価結果概要表

作成日

平成 19 年 8 月 7 日

【評価実施概要】

事業所番号	4070901378		
法人名	株式会社 コムスン		
事業所名	コムスンのほほえみ麦野		
所在地	福岡市博多区麦野 3 - 1 5 - 2 2 〒 816-0082 (電話) 092-588-6181		
評価機関名	社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会		
所在地	福岡市中央区荒戸3-3-39		
訪問調査日	平成19年7月30日	評価確定日	

【情報提供票より】(平成 19 年 4 月 1 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 12 月 1 日
ユニット数	2 ユニット
職員数	14 人 常勤 6 人 非常勤 8 人 常勤換算 13.3 人

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨造り 2階建ての～ 1～2階部分
------	-------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	46,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有() 円	無		
保証金の有無(一時金を含む)	有(225,000 円)	有の場合償還の有無	有 無	
食材料費	朝食	実費 円	昼食	実費 円
	夕食	実費 円	おやつ	円
	または1日あたり 円程度			

(4) 利用者の概要(4月1日現在)

登録人数	17 名	男性	2 名	女性	15 名
要介護1		1 名	要介護2		4 名
要介護3		7 名	要介護4		5 名
要介護5		名			
要支援1		名	要支援2		名
年齢	平均 83 歳	最低 69 歳	最高 91 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	石橋内科医院 ・ 友田病院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

空港に近く、空港へと続く産業道路から1本入った場所に立っているがとても静かな環境である。昔は田園地帯であったことを彷彿とさせる一区画の田んぼがホーム前に残っており、清涼剤の役目を担っている。入居者のADL(日常生活動作)の低下に伴い計画だてでの外出支援が難しくなっている中において、日々の散歩を兼ねた近隣スーパーへの買い物、車椅子で玄関先に出ての外気浴、地域行事への参加など、日常の中で少しでもホーム内から外へ出て、地域と何らかのかかわりを継続するための支援が行われている。法人本部の様々な出来事を通して今年度いっぱい経営母体が変わるが、移譲等による入居者へのダメージが極力無いように努め、経営母体が変わっても、馴染みの職員による継続的な支援が行われることを切に望む。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の外部評価結果を、運営推進会議および家族会時に報告を行い、地域との関係性を中心に取組み、まずは認知症の正しい理解のための啓発活動に尽力するなどの取組みがある。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 地域密着型へ移行したことで更なる地域との連携を認識されるなど、質の向上に向けての具体的な取組みがうかがえた。
重点項目	運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 町内会長,体育委員,育成会,老人会長,地域包括支援センター職員,家族等の参加による運営推進会議の2ヶ月毎の開催がある。ホーム側からの情報提供が主であり,年間の題目を計画して運営推進会議に取り組みなど,生きた会議となるよう努めている。避難訓練時の参加の呼びかけ,ホームで困っていることの相談など,地元出身の入居者が多いという利点を活かして,継続的に地域とのかかわりを深めるための足がかりの場として運営推進会議へ取り組んでほしい。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9) 家族訪問時の声かけ,サービス計画書の説明時や家族会時,「たより」の発行などを通して,家族の意見や思いを引き出すような工夫がある。寄せられた意見は,ミーティングで協議して運営に反映させるなど,オープンにして柔軟に対応しようとする姿勢が伺えた。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ホーム行事への地域住民や子ども会の参加,地域文化祭への見学や廃品回収への参加など,地域との交流を図る取組みがある。食品の買い付けは地域商店を利用しており,生花や果物等の差し入れをいただくなど,自然な形での地域交流への取組みがある。ADL(日常生活動作)の低下に伴い困難になりつつあることは理解できますが,地域密着型へ移行したことを受けて,地域の中で普通に暮らすことができるように,更なる地域との関係性の強化に取り組んで欲しい。

2. 調査報告(詳細)

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1 理念の共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続ける ことを支えていくサービスとして、事業 所独自の理念をつくりあげている	開設当初からの理念であるが、運営推進会議を通 して、地域に開かれたホームを意識して近隣住民との コミュニケーションに努めている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の 実践に向けて日々取り組んでいる	理念に沿って毎月の目標を掲げ、日常のケアを通し て指導を行うなど、理念の実践にむけた取組みがあ る。		
2 地域との支え合い					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員と して、自治会、老人会、行事等、地域活 動に参加し、地元の人々と交流すること に努めている	ホーム行事への地域住民や子ども会の参加、地域 文化際への見学や廃品回収への参加など、地域との 交流を図る取組みがある。また、日常の食材の買い 付けは地域小売店を利用しており、珍しい生花や果 物等の差し入れをいただくなど、自然な形で地域交 流への取組みがある。		入居者のADL(日常生活動作)の低下や状態の変 化等、外に出ることがだんだん困難になってきている ことは理解できますが、地域密着型へ移行したことを 受けて、地域の中であたりまえに暮らすことができ るように、更なる地域との関係性の強化に取り組んで 欲しい。
3 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及 び外部評価を実施する意義を理解し、評 価を活かして具体的な改善に取り組んで いる	前回結果を、運営推進会議および家族会時に報告 を行い、地域との関係性を中心に取組み、今回、地域 密着型へ移行したことで更なる地域との連携を認識さ れるなど、質の向上に向けての具体的な取組みがあ りがえた。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会長・体育委員・育成会・老人会長・地域包括支援センター職員・家族等の参加による運営推進会議の2ヶ月毎の開催がある。ホーム側からの情報提供が主であり、年間の題目を計画し、まずは認知症への正しい理解のための啓発活動に尽力するなど、運営推進会議を活用した取組みへの工夫が見られる。		避難訓練時の参加の呼びかけ、ホームで困っていることの相談など、地域校区出身の入居者が多いという利点を活かして、今後、継続的に地域とのかかわりを深めるための足がかりの場として運営推進会議へ取り組んでほしい。
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センター職員との連携を通じて、入居者の紹介を受けたり、在宅復帰に向けての支援を行うなど、連絡・連携が図られている。		
7 追加	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度の利用実例があり、ホーム会議時に勉強会を行うなど、制度についての理解は図られている。家族会時に説明を行うなどの取組みがある。		運営推進会議や家族会時を利用して、繰り返しの制度の説明を行ってほしい。また、勉強会等を通して職員の更なる制度の理解の促進を図ってほしい。
4 理念を実践するための体制					
8 (7)	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時、サービス計画書の説明時や家族会時などを利用して入居者の状況を説明したり、「たより」の発行を通じて、入居者毎の個別状況のお知らせ、ホーム行事等の案内や報告がある。		
9 (8)	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族訪問時の声かけ、サービス計画書の説明時や家族会時などを利用して、家族の意見や思いを引き出すような工夫がある。寄せられた意見は、ミーティングで協議して運営に反映させるなど、オープンにして柔軟に対応しようとする姿勢が伺えた。		
10 (9)	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの職員が主にかかわるようにしながら、新しい職員が入る時は、笑顔で優しく入居者の話を傾聴することを通じて馴染みの関係づくりへ取り組んでいる。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 人材の育成と支援					
11	19 追加	<p>人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>採用に関する制限は行われておらず、職員の適正と希望があれば、法人本社主催のスキルアップ研修へ参加できるなど、働く意欲を高めるような取り組みがある。元ピアノの先生だった職員に音楽療法を担ってもらったり、園芸が好きな職員には菜園を、料理の得意な職員が他の職員に教えるなど、職員の得意分野を活かすための配慮がある。</p>		
12	20 追加	<p>人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>入居者との日常のかかわりを通じて人権についての指導は行われているが、職員の人権意識を喚起するような取り組みについてはこれからの課題である。</p>		<p>認知症のケアに携わる職員の基本的資質として人権意識が必要であり、その基本的資質である人権意識を喚起する意味において、様々な角度からアプローチを行い取り組んでほしい。</p>
13 (10)	21 (19)	<p>職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修案内の提示を行い参加を募ったり、本社主催のスキルアップ研修や各種勉強会等への参加機会がある。研修参加後は、ホーム会議にて報告を行い知識の共有に努めている。</p>		<p>行政等で行われている各種研修への参加は、個々の職員に委ねられているように思われます。ホームとして個々の職員の資質を見極めた研修参加への取り組みや職員の学習意欲を高めるような働きかけを行ってほしい。</p>
14 (11)	22 (20)	<p>同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>本社主催のスキルアップ研修への参加を通して、系列事業所の職員との交流や情報交換などが図られているが、地域にある他事業所との交流への取り組みは今後の課題である。</p>		<p>地域にある事業所との連携に組み、職員レベルでの見学や情報交換等を通して質の向上へ取り組んでほしい。</p>

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15 (12)	28 (26)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居予定者が入院している場合は入院先に伺い管理者や計画作成担当者の顔を覚えてもらったり、昼間だけの利用から始めるなど、馴染みの関係づくりへの取り組みがある。新しい入居者には、より多く声かけしたりかわりを持つなど、安心な生活を得るための配慮がある。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16 (13)	29 (27)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常のかかわりの中で、しきたりや慣習等について尋ねたり、人生の大先輩として話しを傾聴し共感したり、入居者を尊重した上で言葉の掛け合いがみられるなど、毎日を共に過ごしている様子が伺えた。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1 一人ひとりの把握					
17 (14)	35 (33)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常のかかわりを通じて入居者一人ひとりの思いや希望を把握し、カンファレンスにて情報を収集し、センター方式を採用して思いや希望の共有化に努めている。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18 (15)	38 (36)	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者との日常のかかわりを通して入居者の希望の把握に努め、家族訪問時の声かけや計画書の見直し時の問い合わせにて家族の思いの把握に努めている。日常の業務やカンファレンス時に他の職員からの情報を把握し、計画書へ反映させるなどの取り組みがある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19 (16)	39 (37)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎にサービス計画書の内容の見直しと再作成が行われている。日々の申し送り時に、口頭及びノートを利用した引継ぎが行われており、毎月のカフェレス時に必要な入居者に対する見直しが行われている。		状況の変化の有るなしにかかわらず、チームケアの視点から月に1度のカフェレスにおいて、全ての職員の気づきを取りまとめ、入居者の現状の把握と現状に即したサービス計画書の作成に取り組んでほしい。
3 多機能性を活かした柔軟な支援					
20 (17)	41 (39)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	運営推進会議時の口腔ケアについての講習会の実施を通じての相談に対応したり、入居者の入院時に家族に代わって着替えを届けるなど、地域住民や家族の要望に対して柔軟に対応している。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21 (18)	45 (43)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホーム協力医による1週間に1度の往診の実施がある。入居者のいままでのかかりつけ医への受診は家族対応にて可能であり、ホーム協力医への各種検査等の受診は職員で対応するなどの支援がある。		
22 (19)	49 (47)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者の状況に応じて、1名の家族に対して説明を行った実績あるも、他の方に対して、早い段階での重度化や終末期の意向の確認を行うまでには至っていない。		まずは重度化した場合の本人・家族の希望の確認から始めるなど、早い段階での働きかけを行い、今後予想される状況変化に応じた繰返しの話しあいと段階に応じての合意を得て、本人・家族の思いに添った支援を行ってほしい。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1 その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23 (20)	52 (50)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損 ねるような言葉かけや対応、記録等の個 人情報の取り扱いをしていない	本人の希望に添った称呼、入居者に対するお礼や お詫びの声かけがなされいたり、入居者の行動を良く 観察した上でさりげないトイレ誘導など、入居者を 尊重した対応が見られた。管理者は、職員と入居者と の関係性を観察し、なれてきた頃に言葉かけや対応 について指導を行うなど、常に尊厳を持った支援を心 がけている様子が伺えた。		
24 (21)	54 (52)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するの ではなく、一人ひとりのペースを大切に し、その日をどのように過ごしたいか、 希望にそって支援している	入居者一人ひとりの生活リズムに配慮して、食事 を取る場所、食事にかかる時間、居室ですごすタイ ミング、入浴にかかる時間など、入居者のペースに寄 り添った支援が見受けられた。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25 (22)	56 (54)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人 ひとりの好みや力を活かしながら、利用 者と職員と一緒に準備や食事、片付けを している	職員は入居者と一緒に食事を取り、食器の位置を 取りやすいように変えたり、入居者の嚙下状況に合 わせた食事の形態を準備したり、優しく声かけする など、食事が楽しみとなるような工夫がある。下膳の 手伝いや食器拭きなど、入居者の出来ることへの取 組みがある。		
26 (23)	59 (57)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてし まわずに、一人ひとりの希望やタイ ミングに合わせて、入浴を楽しめるように支 援している	基本的に1日おきの入浴であるが、好みの入浴剤の 使用、好みの湯温での入浴、夕方の入浴や一番風呂 希望への対応など、入居者の希望に添った対応があ る。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27 (24)	61 (59)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	モップかけ、洗面台の掃除、草花への水やり、菜園での収穫、おぼん拭き、下膳、洗濯物干しなど、入居者の持っている能力を活かすような取り組みがある。		ADL(日常生活動作)的に難しいと諦めずに、アセスメントで把握した入居者の趣味や特技、出来る事などの中から、果物の実のつき具合の状況の確認や味見等の小さなものと思えるものでも役割として捉えてサービス計画書に反映させ支援していくことで、入居者の自信につながると考えられることから、積極的に取り組んでほしい。
28 (25)	63 (61)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日々の散歩を兼ねた近隣スーパーへの買い物、車椅子で玄関先に出るの外気浴、地域行事への参加など、日常の中での支援がある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29 (26)	68 (66)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	各ユニット及び建物の出入り口は、日昼は常に開錠されている。建物出入り口のセンサー設置と事務職員の見守り、入居者の状態のきめ細かな把握により外出傾向を把握して一緒に出かけるなどの対応がある。		
30 (27)	73 (71)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署立会いの避難訓練の実施を通して、避難経路や誘導方法についての確認やアドバイスを受けている。入居者一人ひとりに持ち出し用の防災グッズを準備し3ヶ月に1度確認するなど、災害を想定した準備が整っている。いざという時の地域の協力を得る為の働きかけはこれからである。		災害等の緊急時に地域の協力が得られるよう、運営推進会議を利用して働きかけを行うなど、体制作りへ取り組んでほしい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31 (28)	79 (77)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人本社に栄養士が在籍しており、栄養士から提示される献立内容を参考にメニューを作成しており、食事の摂取量のチェックでカロリー等の栄養バランスの把握はできている。入居者の状況にあわせて、カロリーコントロールを行ったり、栄養補助食品を使用するなど、きめ細かな対応がある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32 (29)	83 (81)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台 所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者 にとって不快な音や光がないように配慮 し、生活感や季節感を採り入れて、居心 地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム玄関前のプランターには、季節の草花や小さい 果実が実り、玄関横に植えられた桜の木や生け垣が ホッと心ませる空間を醸し出している。リビングは自然採光をふんだんに取り入れ、畳のスペースが配され、数種類のソファや椅子が準備され、季節の花が飾られるなど、ゆっくりと居心地良く過ごせる工夫がある。		
33 (30)	85 (83)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や 家族と相談しながら、使い慣れたものや 好みのもを活かして、本人が居心地よ く過ごせるような工夫をしている	居室には、仏壇や写真、家具、ベッド、ぬいぐるみなど、思い出のものや馴染みの物が持ち込まれており、居心地良く過ごすための配慮がある。		

 は、重点項目。
(数字)は、国の標準例による番号